

玉縄城 まちだより

発行者：玉縄城址まちづくり会議 荒井 章 TEL&FAX 0467-45-7411

<http://www48.tok2.com/home/tamanawajyo>

市民行政の協働だから進む 玉縄の素晴らしさを再発見事業

500年祭実行委員会 清泉女学院で発会式開催

玉縄のまちづくりは、人任せではない。市民行政が対等の当事者として協働すれば必ずできる。この確信を持って当会は鎌倉市との協働を進めてきました。その結果、平成24年(2012)秋の玉縄城築城500年祭のための実行委員会が11月22日に発足し鎌倉市玉縄自治町内会連合会会長で当会副会長田中八郎氏が実行委員長に就任します。

今後は自町連と一体となってオール玉縄の皆さまの参加を呼びかけ、まつりの実施に向けて前進します。

誰もが喜べるまちづくりへ 玉縄城址公園をめざす

10月13日、当会の8人の役員と市の景観部ほか各部の課長など7人で「まちづくり協働」の会議を行いました。500年祭記念事業として玉縄城址周辺の公園化(突破口を求め活発な

議論を交しました。この協働の会議は今後も継続します。

当会はすでに七曲坂の整備、市のアダプトプログラムに協力した歴史の道の清掃美化、そして「自然の学校」を開き小学生と一緒に花の苗を植える活動など歴史の道の景観づくりに奉仕しています。

私たちは地権者の方々の立場を尊重し、市民の願いにも叶う公園化、まちづくりの在り方を協働の知恵によって模索します。

玉縄100年のまちづくりのため市民行政、清泉女学院などあらゆる方々との協働をめざして参ります。

後北条の玉縄再発見

16世紀、鎌倉の主役は「後北条の玉縄」でした。その主役の座復活へ向け、失われようとする玉縄の歴史と自然の魅力を再発見し、玉縄の新しいまちづくりの出発点としたいーそれが当会の進める「甦れ！玉縄城」の推進活動です。

陣屋坂の16世紀の大遺構



本丸に向かう松並木、木枠の上水道、大池の水際の玉石や島。館では月見の宴も開かれたのか、優雅な武将の暮らしを彷彿とさせます。

1. 玉縄歴史アカデミア連続セミナーでは次々に玉縄の素晴らしさを読取り発表を行いました。衝撃的な陣屋坂大遺構(写真)の報告がその一つです。また協働による景観形成を模索するシンポジウムなど熱のこもった活動を進めています。
2. 鎌倉市文化財課と共催で玉縄学習センター郷土資料コーナーの企画展示を開始しました。

〔玉縄城500年祭(の道)シリーズ〕には、玉縄の歴史の厚みを目で見る企画として市民の関心が集まっています。

3. 龍寶寺と市と当会の協働で龍寶寺民俗資料館リニューアル事業を進めています。資料館の2階では玉縄城の模型づくりも始まっており、年内には完成させてお披露目する予定です。

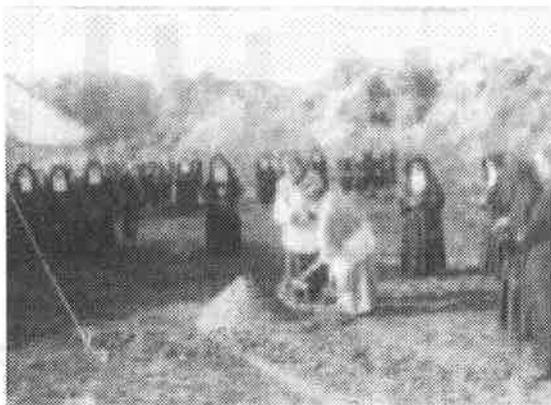
玉縄城址まちづくり会議は常に皆さまと一緒に進みます。

インタビュー～玉縄万華鏡～

清泉女学院(聖心侍女修道会)シスター

坂本 淑子さん
(さかもと よしこさん・城廻)

—玉縄に学校を建てた経緯はどんなものですか—
明治十年(1877)にスペインで創立された聖心侍女修道会が昭和九年(1934)に来日し、麻布三河台に学校を建てました。



学校建設の起工式の模様 (写真:清泉女学院提供)



戦時中は信州に疎開していましたが、戦後米軍に横須賀の校地(現神奈川県歯科大学敷地)を提供していただき学校を再開した後、吉田茂元首相(娘の麻生和子さん(麻生前首相の母上)が当校の卒業生)の力添えもあつて、より教育に相応しい場として横須賀から玉縄の地に移ってきました。

—移転した頃(昭和三十八年(1963))の玉縄はどんな所でしたか—

8月中旬の暑い日に引越してきたのですが、初めて見た校舎が斬新なレンガ造りでびつくりしました。スペイン人はセンスが良いと感心したのを憶えています。

まだ栄光坂の道は無かったので、生徒は大船駅から藤沢行きバスに乗って植木で降り、陣屋坂を上って裏門(玉縄城の大手門)から学校に入っていました。グラウンドが整備されていなかったのでその有様を生徒は「降ればお汁粉♪、乾けば黄な粉♪」と歌を作つて表現していました。(笑)田谷回りのバスは、でこぼこ道でよく揺れ、止まつてしまつと乗客みんな推すこともあつたそうです。

—生徒の皆さんにとって玉縄に学校がある素晴らしさは何でしょうか—
授業中にウグイスやホトトギスの声が聴こえるなど自然環境に恵まれているので情操教育に良く、優しい人柄



学校が建つ前の玉縄城址 (写真:清泉女学院提供)

北方のお花畑から見た城跡の背面。中央から左へつづくのは本丸を囲む高い土塁で、土塁とお花畑の間に大きい空堀があり本丸跡をめぐっている。手前のすすき原はお花畑の一部

に育つていると思います。理科の時間に校地の中で生物や自然を学ぶことができるなんて本当に恵まれています。また歴史の勉強の面でも、以前は郷土研究部があり地元の先生をお呼びし地域の勉強をして、清泉祭で発表したりしていました。その時学んだ「玉縄城の歴史は権力闘争も無く地元の民と共にあつた血生臭くないお城」とのイメージは、今でも心の中に残っています。

—最後にひと言お願いします—
学校としては地域に開かれた学校でありたいと願っていますが、行事などの年間計画が決まっているので必ずしもご要望におこたえ出来ないこともあり残念です。(インタビュー)

歴史シリーズ 5 玉縄城主 北条氏舜

五代玉縄城主北条左衛門大夫氏舜(さえもんたいふうじとし)については文書の残存率が低く、不明な事が多い。父の四代氏繁は玉縄衆として北条宗家の領土拡張政策の先兵として活躍し、岩付城(現在の岩槻)領の支配を行つたり、天正五年(1577)には下総飯沼城(茨城県猿島郡逆井)を築き、常陸の佐竹義重を中心とする北関東連合に対する下野・常陸への最前線基地としたりした。この飯沼城普請には、藤沢から森本之助配下の大鋸引衆(おおがびきしゅう)が呼び寄せられている。

佐竹十九代義重は元龜元年(1571)5月下総岩井で北条軍2万の兵を僅か5千の兵で打破り、「鬼佐竹」「坂東太郎」と周辺の諸將に恐れられた武将である。

天正五年(1577)7月には四代小田原城主北条氏政が小田原より出陣し佐竹勢と合戦するが勝負はつかず、9月末まで在陣し北進する地盤を固めた。翌天正六年(1578)正月には越後の上杉謙信が佐竹氏と呼応して出陣命令を下すが、同年3月に春日山城にて49歳で死去する。その3ヵ月後の6月13日には氏繁も飯沼城にて43歳で病没した。

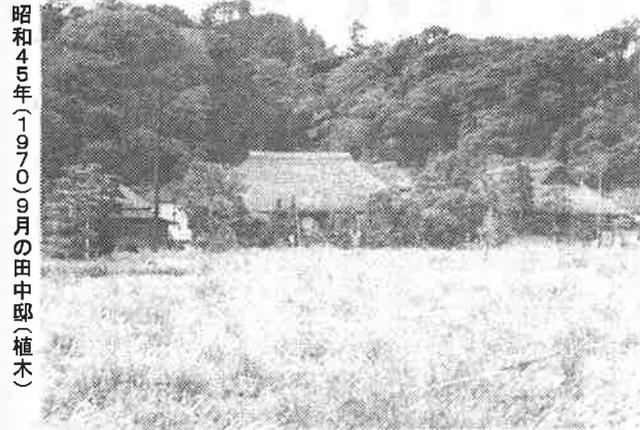
「玉縄城址まちだより」会費200円参加しませんか。お問い合わせはお近くの会員まで

“私の幼い頃の 思い出”

田中 八郎

私は昭和九年(1934)十二月六日生まれであります。

祖父は大船町役場の収入役・町会議員を歴任しましたが、封建的な家でお風呂が一番先に入り、家族は祖父が入った後でなければ入りませんでした。会議等で帰宅が遅く入浴しなかつた日は誰も入らなかつたそうです。幼い私は母の言いつけで「おじいさんおぬるくありませんか」と湯加減を聞きに行き、履物も直しに行っていました。



昭和45年(1970)9月の田中邸(植木)



30代の頃の田中さん

私の家では夕飯が早くて夏でも四時頃で近所の家ではまだ働いている時分でした。昔はめつたに自動車を通らなかつたので県道で野球(三角ベース)をして遊んだりしていると、遠くから「はちー、はちー」と祖父が呼びます。私はご飯に味噌汁をかけたものを食べていました。他におかずが少しあつたと思います。家族一人一人にお膳がありました。祖父だけは高いお膳でした。神棚から焼酎を出して一杯ついできゅつと飲むとすぐご飯をいたたいていました。腰越から魚を売りに来ていましたが、刺身が好きで良く買っていたようです。

家の北側は山林で西側と南側が水田でした。水田の中に田島といつて三ヶ所ぼつりぼつりと畑がありました。がそこに柿の木が植えてありました。柿の実が食べ頃になると、祖父が外庭の隅にある井戸水(吹き上げていました)で洗い、皮をむいて食べさせてくれました。祖父は私がとてもかわいかつたのではないかと思います。

私が国民学校に入学する前は門の所から東海道線をSLが走るのが見えました。昔は線路のところまで全部水田でした。

大船駅西口を昔は表駅と呼んでおり、東口は裏駅でした。その表駅に入るところに大きな扉がありました。夜遅く静かな時は、「大船、大船」というホームの列車発着のアナウンスの音が家までよく聞こえました。

父は横浜市の宮谷小学校の教師でした。母の話によると生徒から大変慕われていたようです。水泳が得意でしたが私は教えるもろうことができませんでした。残念です。

祖父は私が小学校二年生の時の六月一日にこの世を去り、同じ年の十一月一日に父が亡くなりました。

母は一年のうちに大切な人を二人も亡くして大変な苦勞をしました。私は親孝行をしなくてはいけないと思いましたが、母は私の後姿を拝むようだと言いました。他の人にもそう言うていました。

私は父が亡くなって悲しい時に、人が大勢来られるので喜んでいました。今考えてみると恥ずかしくてこんなことはいえませんが、本当にそうでした。現在の小学校一・二年生とはすべてにおいて雲泥の差があつたと思います。

(玉縄自治町内会連合会会長)



これまで父氏繁を補佐していた嫡男氏舜は、祖父綱成が玉縄城にて健在であつたため飯沼城主に据えられる。氏舜には後の六代玉縄城主氏勝と直重・直胤・繁広という4人の弟と妹2人がいたが、玉縄城主も氏舜が継ぎ、天正八年(1580)8月には武蔵岩付城の城代に就任。飯沼城は氏勝が城主となる。

氏舜文書は天正五年(8年)に限られこの4年間で氏舜の玉縄城主時代であると現在は見られている。次の玉縄城主となる氏勝の初見文書は天正十一年(1583)5月のものであり、天正八年から十一年の間に氏舜は弟の氏勝に家督を譲り隠居もしくは病没したものと推定される。氏舜死去年月日、墓所、戒名等は伝えられず玉縄北条一族の中でも不明な点が多く、子供の存在も不明である。

なお氏舜・氏勝の末弟繁広は鎌倉市岩瀬の大長寺に北条常陸介新左衛門尉繁広・慶長十七年(1612)6月8日没・泰清院殿惠雲常智大居士として、母の七曲殿・祖母の綱成室大頂院と同じ廟所に葬られている。

玉縄思い出写真館

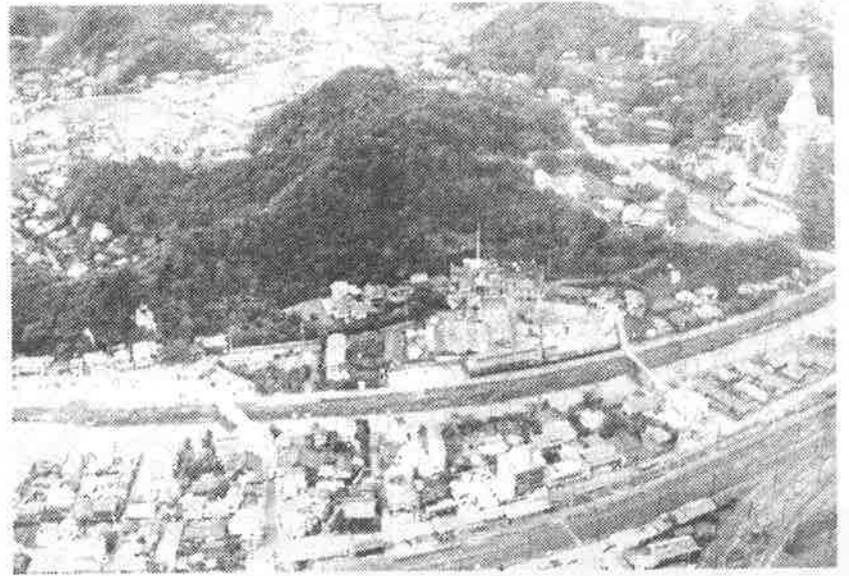
上空より見た岡本 三谷美智子さん提供
昭和45年9月17日撮影

【ついで】

大船観音から戸部橋・玉縄首塚方面の航空写真です。既に観音さまの下から玉縄青少年会館・栄光坂方面への道は開通していますが、柏尾川に架かる2つの橋が今とは違っています。

右側の富岡橋は観音さまの真下ではなく少し下流に架かっており、左側の戸部橋は川に対して直角ではなく首塚の方に向かって少し斜めに架かっています。

今の清泉女学院行きのバス停留所・駐車場の所には山の尾根が伸びており、大船軒前のDIKマンシヨンの場所には鎌倉ハム富岡商会の工場が建っています。



「玉縄城址まちづくり会議」の活動

2009年(平成21年度前半)

- 5/9 初夏の探索会開催 関谷入口～関谷原～地藏堂
- 5/15 旧石井家住宅でくま座会議 玉縄民俗資料館事業の検討
- 6/1 「自然の学校」開催 玉縄小 3年生菊の苗を303本植付け
- 6/5～7 NPOフェスティバル展示と「玉縄検定」クイズの開催
- 6/10 「玉縄再発見と発表事業」市教育委員会に共催依頼提出
- 6/17 玉縄学習センター郷土資料コーナー企画展「玉縄って何？」開始
- 6/20 第1回玉縄歴史アカデミア『玉縄城の遺構を読む』開催 「玉縄の埋蔵文化財」玉林氏 「縄張り測量報告」大竹氏
- 7/11 第2回玉縄歴史アカデミア 「玉縄の自然の変遷」椎野氏 「市民緑地とは？」市みどり課
- 8/17 玉縄民俗資料館整備開始
- 8/23 「花壇クラブ」花の頒布会開催
- 9/1 玉縄学習センター郷土資料コーナー「玉縄城って、なんだろう？」展示
- 9/12 第3回玉縄歴史アカデミア 「自然景観を活かす玉縄のまちづくり」市景観部、まちづくり政策部 「初めて明かす遺構の秘密」齋木氏
- 9/27 滝山城・八王子城探索日帰りバスツアー開催。28名参加
- 9/28 玉縄民俗資料館「資料名札付け」実施 市文化財課参加
- 9/29 清泉女学院と500年祭打合せ
- 10/5 玉縄城大手門模型制作開始
- 10/13 玉縄城址公園化協働の会議 市景観部他7名、当会8名参加
- 10/21 「自然の学校」開催 関谷小 3年生チューリップ球根植付け

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4

「玉縄城500年祭 実行委員会」発会式

- 11月22日(日)
- 清泉女学院講堂
- 発会式

13:00～13:30
清泉女学院管弦楽部による音楽会

13:30～14:10
□ 記念講演会(玉縄歴史アカデミア第4回)

「後北条一族の戦さと暮らし」

鳥居和郎氏(神奈川県立歴史博物館専門学芸員)

□ シンポジウム

「武家の古都鎌倉に」後北条が遺したもの」

伊藤一美氏・鳥居和郎氏
山口博氏・真鍋淳哉氏

15:00～16:10

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4

玉縄歴史アカデミア第5回 「玉縄城の遺構を読む」

□ 「玉縄城址遺構の検証」
小林康幸氏(鎌倉市文化財課係長)

□ 1月16日(土)

13:30～

□ 玉縄学習センター3階

第4回総会

□ 4月24日(土)

13:30～(予定)

□ 玉縄交流センター(予定)

玉縄城址歴史の道七曲坂アダプト(草取り清掃)

□ 毎月第1土曜日

9:00～11:00

七曲坂花壇クラブ

□ 毎月第3日曜日

9:00～11:00

平成22年度会費のお知らせ

平成21年度総会で年度を1月末から3月末までに変更しました。そのため3ヶ月間の会費(300円)を追加した1,500円が次年度の会費となります。早めの納入をお願いします。

「郵便振替口座番号」

002507114824

玉縄城址まちづくり会議

※住所・氏名・電話番号をお忘れなく!